数式エディタについて（補足）

＜数式を入力する方法＞

1. Microsoft数式3.0の利用

「挿入」タブ－「オブジェクト（テキストのグループ）」をクリックし、「オブジェクトの種類」から「Microsoft数式3.0」をクリック

一例　

＜特徴＞

・上の例のように、文中に数式が入ると行間が少し広くなる。

・図と同じ扱いで、任意の位置に配置するときは、右クリック‐「オブジェクトの書式設定」－「レイアウト」－「前面」をクリック。その後、ドラッグで任意の位置に配置可能。

・図と同じで、拡大・縮小が可能。

・フォントは、「Times New Roman」の斜体が基本。

2. 数式（π）ボタンの利用

「挿入」タブ－「数式（π）（記号と特殊文字のグループ）」をクリック

一例

＜特徴＞

・上の例のように、文中に数式が入る時、行間はそのままである。自動的に積分などの記号は小さくなる。

・一行に数式のみ配置するときは、次のように、行間が広くなる。

・任意の位置に配置するときは、あらかじめ数式を作成しておき、「挿入」タブ－「テキストボックス」を開いて、そこにコピー＆ペーストする。テキストボックスの囲み線は、右クリック‐「オブジェクトの書式設定」－「色と線」で、線を「色なし」にする。

・数式のフォントサイズは10.5ptが基本であるが、サイズを変えたいときは、数式を選択後、ホームタブのフォントサイズを変更する。下の数式は8ptに変更した場合の例。

・フォントは、「Cambria Math」の斜体が基本。ドラッグしてTimesNewRomanへの変更も可能。